

令和7年度 第21回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。

日時:令和7年11月7日(金) 19:00～

場所:白峰地域交流センター

参加者:9名



- ◆ 白峰温泉総湯の建て替えをきっかけに設立した NPO 法人白峰まちづくり協議会を母体に、昔から根付いている団結力で地域の課題に対応しています
- ◆ 人口減少の中で担い手一人一人の役割が多いことに負担感があります

(参加者)

もともと、白峰温泉総湯を建て替える際に、市が施設を整備し、運営は地元で頑張ってくださいという話がありました。その中で、地元も汗をかかなければならないという思いから、NPO 法人白峰まちづくり協議会を設立した経緯があります。その後、「菜さい」の運営や、民営化した保育所などにも関わるようになり、活動の幅は広がってきました。

そして今回、地域コミュニティ組織をという流れの中で、このまちづくり協議会を母体としたコミュニティ部会として活動してきました。地域の皆でさまざまな取り組みができましたが、1年を振り返ってみて「ここが良くなった」とはっきり実感できる点は、正直なところあまり思い当たりません。

けれども、この地域は白峰と桑島の2つの集落から成り立っており、日頃からお互いに連携を取りながら、組織づくりや地域コミュニティの形成が進んできた地域だと思っています。現時点で何か大きな変化があるというよりも、生活環境の面や人口減少が進む中で、これからそれらにどう対応していくか、みんなはどう解決していくかが今後の課題だと考えています。少子高齢化が進んでいることは、間違いありません。

(参加者)

今ほどもお話があったとおり、白峰は昔から「自分たちでいろいろやる」という姿勢が地域に深く根付いています。そのため、令和6年度に公民館がコミュニティセンターになるにあたって、母体となる白峰まちづくり協議会の中に、事務局として入る形で運営しているところです。

ただ、コミュニティセンターからの発信が十分ではないのかもしれませんが、活動が地域の皆さんにまだ行き渡っていないと感ずることがあります。「公民館と何が違うのか」と聞かれると、現時点では私自身も明確に説明しきれない部分がありますが、これまでより自由度が高まり、さまざまな団体と連携して取り組みやすくなると思っています。

今日来られた皆さんにも、細かな活動までは十分に伝わっていない部分があるかもしれませんので、今後より幅広く周知し、地域の皆さんと協力しながら活動に力を入れていければと思います。

(参加者)

白峰地域はもともと団結力があり、区長会を中心に、まちづくり協議会などさまざまな組織で地域運営を行っています。ただ、人口減少が進む中で、どの会合に参加しても結局は同じメンバーになることが多いのが現状です。会議が続くと、「今日は何の会だったかな」と感ずることもあります。組織ごとに役割はありますが、参加者が重なり続けると、担い手の負担はかなり大きいと感ずます。

(市長)

地元でNPOを設立していただき、皆さんでまちづくりに取り組んできた地域ですので、確かに、公民館がコミュニティセンターに移行したことで「何が大きく変わったか」と言われると、目に見える変化はそれほど多くないのかもしれませんが。

ただ、逆に言えば、白峰はモデルになると言いますか、他の地域から見ても、これまで積み重ねてこられたさまざまな取り組みがあり、素晴らしい土台があると思います。担い手の部分で課題がある中でも工夫されているのだと思います。

◆ 育友会や消防団では、地域のつながりを生かして活動し、若い担い手を増やしています

(参加者)

皆が繰り返して話していますが、白峰は、もともとコミュニティができている地域です。そのため、育友会で何かをすることになったとしても、協力をお願いする相手や声をかける相手が見えやすく、そうした関係性が地域にあります。学校で何かあった時にも動きやすさがあると思います。

育友会だけでは対応が難しいことがあったり、少し専門的なことが必要になったりした時に、声をかける相手がなんとなく見えているところがあります。分からない場合でも、ひとまず誰かに聞いてみるのがしやすい地域だと思います。

(参加者)

例えば昨年から、白峰小学校で雑穀の「かまし」(シコクビエ)を作るようになりました。そのときに「少し手伝ってください」と声をかけると、2人ほどがすぐに手伝いに来てくれたり、作り方を教えてくれたりしました。そうしたコミュニケーションがよく取れている場所だと思います。

(市長)

コミュニティがしっかりしているからこそ、そういうことができるのでしょうね。

(参加者)

高齢化が進んでいるので、南消防団白峰分団としても、若い人に関わってもらえるように取り組んでいて、地域外に住んでいる若い人たちにも、分団に入ってもらえないかという形で声をかけています。

分団は幅広い年齢層の中で一緒に活動できます。活動することで白峰のことが見えてきて、地域の良さも分かると思うので、若い人を誘う取り組みを続けています。そうして白峰出身の若者が頻繁に帰ってきたり、縁のある人に足を運んでもらえたりという形ができれば、白峰の良さもさらに分かってくるのではないかと思います。今も何人か来てくれそうな状況です。

(市長)

他の分団でも、なかなか人がいなくなっているという話を聞きます。お祭りのときに「ちょっと入らないか」と声をかけるなど、何かの機会に働きかけていかないと、続いていかないとします。

◆ 大学生などの交流人口が増えていることはありがたく、青年団と一緒に活動できている一方で、防犯面での不安があります

(参加者)

さまざまな活動を進める中で、今、白峰には大学生が多く来てくれており、交流人口が増えていることはありがたいと感じています。ただ、その一方で、防犯面では少し課題も出ています。以前は、誰が歩いているかをだいたい把握できていましたが、今は若い人も多く歩いていて、「どこかの大学の学生が歩いている」程度の把握にとどまってしまう。

回覧板でも鍵を閉めましょうと周知するようになりました。もともとは、畑で取れたものを玄関に置く風習などもあり、どこの家も鍵をかけないような地域でした。そのような文化を残しておきたいと思う反面、鍵をかけたほうがよい状況になってきており、今後考えていく必要があると思っています。

(参加者)

地域活性化の面では、よそから足を運んでいただけることは良いことだと思います。私も移住者ですが、もともと白峰の方は、顔見知りの人には心を開きやすい一方で、急に若い人やよそから来た人が増えると、少し不安に感じることもある、という意見を聞いています。

(市長)

交流人口が少ない時は、皆さんお互い顔見知りだったと思いますが、交流人口が増えれば増えるほど、心配も出てきますね。以前、スキー場で電線が盗まれる事件があったとき、白峰でもそういうことが起きるのかと非常に驚きました。そういう意味でも、先ほどの「鍵をかける」といった対策は大事だと思います。

青年団では、いろいろ活動されていると思いますが、例えばどんなことをされていますか。交流人口が増えているというお話もありましたが、大学生との交流はありますか。

(参加者)

青年団として一番大きいイベントは、秋の相撲大会です。それ以外では、白山まつりの神輿や文化祭の手伝いなどが中心になっています。そうした行事に、大学生の若い人たちが結構手伝いに来てくれるので、こちらとしても助かっている面があります。

(市長)

大学生は入れ替わり立ち替わりですか。お祭りがあって、次の行事になると全然見たことがないという感じになりますか。

(参加者)

代表の学生は決まっています、その学生と連絡を取って声をかけて、手伝いに来てもらっているという形です。この間の報恩講のときには、新しい代表の3年生の男女2人が来ていました。

しらみね大学村の会員は80人くらいいると聞いています。お祭りのたびに、見たことのない大学生が来ることもあります。代表の方の顔は知っていますが、何人か顔なじみの学生がいる一方で、行事のたびに初めて会う学生もいる、という印象です。

(市長)

交流人口が増えているけれども、入れ替わっていくので見慣れた方がいないということなのですね。でも大学生もそのような中で頑張ってくれていると思います。

◆ 白峰温泉総湯の魅力の核として観光客が来られています

◆ 少子高齢化により宿泊施設や飲食店などの担い手が不足していますが、観光客を受け入れる環境を整えていきたいと思います

(参加者)

交流人口は増えてきていますが、少子高齢化の影響が大きく、観光の入込客数が増えている実感はあまりありません。以前の白峰は、御前荘、八鵬、蛭月といった大きな宿泊施設があり、さらに民宿も何軒も

ありました。しかし今、宿泊できるのは4軒程度に限られ、運営されている方も高齢化が進み、少しずつ減ってきています。

私自身も店をしていますが、お客さんから「白峰でご飯を食べるところはないですか」とよく聞かれます。飲食店は3軒ありますが、団体客で貸し切りになることもあって昼はそこだけでは足りず、順番待ちになることも多いです。金曜日は菜さいが休みですし、今日も「食べる場所がない」とお客さんから何件か言われました。受け入れ体制を考えていく必要があると思っています。

今年は天候に恵まれなかったこともあり、観光客が増えているとは思えませんが、せっかく来てくれたお客さんが食事ができずに不満を感じてしまうと困ります。少子高齢化で飲食店の担い手も減っている中で、来訪者に満足してもらえ環境を整えないといけないと思っています。

(参加者)

白峰温泉総湯の入館者数で見ると、例年と大きくは変わらないくらいです。総湯があるからこそ、お客さんが来てくださっている面が大きいので、ここは大事にしていきたいです。

また、天望の湯の再開を望む声も強いです。泉質もよくファンが結構いて、閉めてからも「再開しないのですか」と何人にも聞かれます。天望の湯からは白山が見えますし、白山登山の帰りに入って行く方もいました。

(参加者)

ただ、運営するとなると、結局は人材確保の課題がありますし、温泉施設は傷みやすいという面もあります。

(参加者)

もう一つ言うと、せっかく世界ユネスコジオパークになったのに、ここへ来る途中に「ジオパーク」と分かる看板がほとんど見当たりません。観光客へのアピールの面でこれはどうなのかと思います。

(市長)

この前、ユネスコ関係の方も来られましたが、ジオパークの場所だと分かる表示は一部にはあるものの、全体としては十分ではありません。今回はまだこちらまで整備が行き届いていませんが、例えば北陸鉄道石川線は「白山ジオパークライン」と呼ぶ取り組みを進めていて、ネーミングも含めたPRをしていこうとしています。PRの弱さは課題だと思いますので、そのあたりも含めて考えていきます。

◆ 子どもが増えている中、白峰保育園の保育士確保に苦労しています

(参加者)

今年、白峰では未満児の数が増えました。11月ごろから途中入所したいという相談がありましたが、受け入れは難しいと言われたと聞いています。保育士不足が理由だったのかは分かりませんが、もう少し柔

軟に対応できるようにしていく必要があると思います。せっかく赤ちゃんが生まれても預けられないとなると、働く場の確保や、「こちらに戻って子どもを産もう」という流れにつながりにくくなるのではないかと懸念しています。

(参加者)

現在、園長と市から派遣の2人を含めて保育士が4人、補助員が2人で、計6人体制で運営しています。未満児は配置基準が厳しく、未満児に対しては保育士を手厚く配置する必要がありますので、その時期は6人でもぎりぎり、受け入れが難しい状況でした。

今は園児が10人で、来年は15人になる見込みです。市が認めている定員10人を超えて15人を受け入れるとなると、園長も保育に入らなければならず、ローテーションがかなり厳しくなるのが実情です。今後の課題は保育士の確保です。

(市長)

実は最近、どこも人材不足で、保育士も募集してもなかなか集まりません。人口の多い地域でも、複数の理事長から同じような話を聞いています。

(参加者)

そうすると、山間部の過疎地にある民間の保育園では、保育士の確保はさらに厳しくなりますので、前回は要望を出しました。

交流人口は多い一方で、これからの地域づくりには、若い世代が定住することが大切だと思います。定住して、結婚して、子どもを育てるとなったときに、この地域で生活を続けられる環境づくりが必要になります。

そのため、近くに保育士がいないか、親戚や白山ろくのOBなど、さまざまなつながりを通じて探していく必要があると考えています。ただ、なかなか人が見つからないのが現状ですので、市にもサポートやバックアップをお願いしたいというのが、今の考えです。もちろん、すべてを市に頼むということではありませんが、早急に取り組むべき大きな課題だと思っています。

(市長)

せっかく子どもが増えても、預ける場所がないと仕事にも行けませんね。

(参加者)

そうすると、ここで定住できなくなります。結局、子どもが生まれたら、例えば鳥越や河内など近くの保育園まで送らないといけません。そうすると、「ここに住んでいる意味があるのか」というところまで話が進んでしまいます。保育所や小学校など、子どもが小さいうちは、地域の身近なところで、みんなで育てていくことが大切だと思います。

(市長)

白峰の相撲を見ていて感じたのですが、地域で育つからこそ、子どもたちは地域へのふるさと愛や楽しい思い出がたくさんできます。小さい頃に別の地域で保育所や学校に通うことが続くと、自分の地域とのつながりが薄くなってしまいます。今のお話は大事だと思います。

(参加者)

運動会を見ていても、そのときだけは外に出ている若い人たちが帰ってきて、一緒に参加します。みんなでお弁当を食べると、とても盛り上がります。大学村の学生も何人か手伝いに来て参加しています。そういうところが白峰の本当に良いところで、地域の特性だと思っています。

(市長)

白峰の大きな課題は、定住者を増やしていくことです。そのためには保育園や学校のこともそうですし、「ここに住みたい」と思える環境を整えないといけませんね。

先ほどもお話いただきましたが、白峰保育園には、平成26年に民営化となってから、毎年保育士2名の派遣をしており、今後も引き続き職員の派遣を行ってサポートしていきたいと考えています。一方、厳しい現状は理解していますが、安定した保育運営、安心・安全な保育の提供のためにも白峰保育園で保育士を採用していくことは大切ですので、ぜひ、採用に繋げていただければと思います。

◆ 空き家の活用策として、リノベーションを進めてゲストハウスにしていますが、今後は定住者用の住まいも考えていく必要があります

◆ 重要伝統的建造物群保存地区で家を建てる難しさがあります

(参加者)

住環境についてですが、空き家も、できるだけリノベーションを進めて、今のところはゲストハウスとして1棟貸しにし、管理していこうとしています。空き家が出ると「ここに住みたい」という人も結構います。ただ、長年空き家になっていると、水回りなどはどうしても修繕が必要になり、いろいろな補助金も活用しながら直しています。将来的には、白峰として宿の仕事をするというような形につながってほしいとも思っています。

空き家は壊してしまったら終わりなので、できるだけ残す方向で動いています。ただ、冬の雪の問題が大きいです。下の雪は、若い大学生やボランティアに集まってもらって片付けてもらえると助かりますが、屋根に上がってもらうのは危険が伴うので、難しい面があります。屋根雪下ろしに慣れた若い人が住み続けてくれるといいと思いますが、慣れている人は高齢化しています。屋根融雪を付けている家もありますが、灯油代が高くなると、融雪設備があっても稼働させない人もいます。このあたりは、空き家を維持しようとしても大きなネックになると思います。

(市長)

空き家の問題は白峰地域全体の課題ですね。白峰地区でも桑島地区でも、空き家の話が出ていました。交流人口が増えて、お祭りなどにもぎわう一方で、やはり定住者が増えないと、持続可能な地域づくりは難しくなります。

(参加者)

しらみね大学村の学生や金沢大学の方々が、空き家を2軒活用して拠点として使ってくれています。家は人が使っているほうが長持ちするので、そういう使い方もあるのだと思いました。若い人が「白峰はいいところだから住みたい」と思ったときに、この家をどうぞと言えるようになればいいと思っています。

(参加者)

住みたいと思ったときに、「空き家はあるのに住める家がない」という問題があります。

今は空き家を観光客向けにリノベーションしていますが、地元の若い世代が一時的にでも住めるような、居住用のリノベーションも考えていかないと、今後は厳しいと思います。建物だけが観光客向けに増えても、管理を誰が担うのかという問題がありますし、ここは雪の問題もあります。だからこそ、地域に残っている人や、これから住みたい人が住める環境づくりを進めたほうがいいと思います。

また、放置するより、住める可能性のある物件はリノベーションしていくのが良いと思います。古民家は人気もありますし、昔ながらの家も多いので、工夫次第で活用できると思います。

(参加者)

白峰の一部は重要伝統的建造物群保存地区になっているので、新しく建てようとする条件がかなり厳しいです。子どもが家を建てようとしていて、白峰の中でも自分が生まれ育った地区に住みたい、といった希望がありますが、片屋根にしたいと言っています。ただ、それは保存地区ではできないという条件があります。補助金を受けて建てることになるので審査に通る必要があります。

また、空き家を活用できればいいのですが、そのタイミングが合わないことも意外と多いです。

今から白峰に来て家を建てようという人がいたとしても、この状況では白峰が住む場所の選択肢から外れてしまうのではないかと思います。

(参加者)

確かに、白峰に定住しようとする人は、先ほど言ったように地域コミュニティがしっかりしているところに魅力を感じハマった人が多いので、離れた場所よりも、中心部のほうがいいという人が多い気がします。

◆ 比較的子育て世代の移住もある中、気軽に行ける子どもの遊び場、公園がほしいと思っています

(参加者)

定住に関連してですが、白峰は他の過疎地に比べると、比較的若い世代が多い地域だと思います。子育てをする若い世代からは「もう少しこういうものがあればいい」という要望も出ています。

大まかに言うと、気軽に遊べる小さな公園のような場所がありません。保育園も、利用できるのは保育時間内に限られます。桑島の公園も、遊具が劣化して危険だということでテープが巻かれている状況です。親同士でも「子どもたちが遊ぶ場所がない」という話になります。

普段は近くの広場で遊ぶこともありますが、観光シーズンになると車が増え、街から来た人がスピードを出して走ることもあり、危ないと感じる場面があります。公園のような場所があればいいと思います。

(参加者)

私たち親世代が子どもの頃は、学校のグラウンドでも遊べましたし、遊具もある程度そろっていて、自由に使えてよかったです。桑島にも公園が2つあり、当時はしっかりした滑り台もありました。緑の村や恐竜パークにも遊具がありましたが、今はもうなくなってしまいました。

以前は自転車に乗って白桑線で白峰と桑島の間を行き来して遊んでいましたが、最近はクマの出没もあって、自転車での行き来が難しくなっています。

(参加者)

結局、クマにとっては、こちらの山からあちらの山へ移動する通り道に、たまたま道路があるようなものなのだと思います。

(参加者)

遊具が少しあるだけでもいいので、子どもたちが集まれる場所がほしいです。今、子どもたちが集まるとなると、誰かの家に行って遊ぶしかありません。

(市長)

あちこちの遊具が傷んで撤去されたり使えない状態だったりということですね。実は今後、桑島左岸の公園については、安全に使用できるようにブランコの入れ替えを行い、滑り台は撤去する計画ですので、しばらくお待ち頂ければと思います。また、右岸の公園については、今のところ更新などの予定はありませんが、状況確認を続けていきます。

- ◆ 西山地区は人の集まる場所なので防火設備が必要ではないでしょうか
- ◆ 全国的に山火事が多く、最低限緊急車両が通行できる程度の林道整備が必要です

(参加者)

この前、西山地区で火災がありました。そのとき、現場が山奥で水利がなかったため、国道から 8 台中継して送水し、ようやく消火できました。クロスカントリー競技場があり、国際大会や県内大会も開かれて人が集まる場所なので、防火水槽などの防火設備があるとよいと思います。

また、工事が入っておらずほとんど通行できない林道があります。全国的に異常気象で山火事が発生しているのです。大規模な整備までは難しくても、少なくとも緊急車両が通れる程度の林道整備をしていただけるとありがたいです。山に全く入れない場所が何か所もあります。

(市長)

令和 4 年 8 月 4 日の豪雨の影響で、白山市では復旧できていないところが 6 割から 7 割あり、白山ろく地域でもまだ 3 割から 4 割残っています。さらに、白山ろくだけでも橋梁が 850 以上あり、その半数は築 50 年以上です。林道も順次点検していますが、正直なところ追いついていません。引き続き進めていかなければならないと思っています。

私も先日の火災のときに一番心配だったのは、山林火災になって手が付けられなくなることでした。本当に大変な中で消火していただきました。

(参加者)

ちょうど風がなく、火柱がまっすぐ立っていたので何とか大丈夫でしたが、もし風が吹いていたら、燃え移るほどの勢いだったと思います。望岳苑も無事でした。私たちが到着した時点では屋根が焼け落ちていましたが、本当に風がなかったことが幸いでした。

国道から現場まで約 1.7km ありました。そこから高山植物園のところを右に入ると、さらに約 700m あり、合計で 2km 以上です。標高差も 70m から 80m 以上あり、相当大変でした。鶴来の一の宮分団と白山ろくの各分団に来ていただき、皆さんの力があって対応できました。

- ◆ 世代を超えて一緒にできる事業を実施し、一人当たりの負担を減らしながらコミュニティの団結力を最大限発揮していきます

(参加者)

コミュニティセンターとして改善したいと考えていることは、初めにも出ましたが、どの会に行っても同じメンバーになりがちで、一人当たりの負担が大きいことです。少しでも負担を軽減できる方法がないか、事業を進める際に考えています。

例えば文化祭のとき、私たちもちろん手伝います。ただ、1 つの団体が準備をすべて担うのは大変だと思いますので、育友会と子ども会と一緒に出店するなどして、費用面も含めて、1 つのことをみんなで分担して進められる事業ができればいいと思っています。いかがでしょうか。

(市長)

今、保育園の子どもも増え、白峰小学校も 11 人ですね。子どもが増えて、子どもたちも地域の大人たちと一緒に、活発に活動していますよね。

(参加者)

そうやって子どもたちも含め、地域の皆さんと一緒にできる事業を、できるだけ多くしていきたいと思っています。白峰の良いところは、顔が見える関係で、みんな仲が良く、団結力があるところだと思います。これから人数は減ってしまうかもしれませんが、それでも地域が発展していける形をつくりたいです。

例えば、お年寄りと子どもと一緒に学ぶ場をつくるなど、世代を超えて関わる取り組みができれば、いざというときの防災の力にもなると思います。そうした場面で団結力が発揮できれば、より安全・安心に暮らせる地域になると思います。

(市長)

本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。白山市ミライ会議として、こうした形で各地区を回らせていただいておりますが、地域のことは、実際に伺ってお話を聞かないと分からないことが多いと感じています。

今日はさまざまなご意見やお話を伺うことができましたので、今後の市政に生かしていきたいと思えます。どうもありがとうございました。